

府立中津支援学校 令和7年度「学校運営協議会」議事録（第1回）

日時	令和7年6月24日（火）10：00～12：00			
出席者	協議会委員	所属等	学校事務局	校務分掌等
	川田 和子	大阪夕陽丘学園短期大学 教授	木下 美香子	校長
	大橋 弘嗣	大阪整肢学院 院長	入福 濱 光	教頭
	中塚 磨由美	大阪北ライオンズクラブ	中村 隆子	事務長
	園田 葉子		宇賀 功二	首席
	梅谷 通代	中津保育園 園長	野島 香織	小学部主事
			久保 太作	中学部主事
			三木 智裕	高等部主事
傍聴人				
おもな テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年度 学校経営計画 ・ 令和8年度 教科書選定に向けて ・ 授業見学 他 			
協議内容 の概略	<p>1 令和8年度 教科用図書選定に向けて（令和7年度 教科用図書展示） 教頭より資料「令和8年度 使用教科用図書選定理由書」等について説明した。また、会場内に、今年度採択・使用している教科用図書の一部を見本として展示した。</p> <p>2 令和7年度 学校経営計画 学校長より、今年度重点的に取り組む項目を中心に説明を行った。</p> <p>3 令和7年度 学校教育計画について 首席より、学校教育計画の概要について説明し、続いて、学部主事より、学校経営計画を踏まえた各学部の目標や重点的な取組みについて説明を行った。また、授業見学の内容について、授業のねらいや児童生徒の実態等について説明した。</p> <p>4 授業見学 高等部、中学部、小学部の順に授業を見学した。事前の説明を踏まえ、その場で補足等の説明を行うことにより、児童生徒の活動の様子を通じて、授業の意図等が委員に伝わるようにした。</p> <p>5 質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪整肢学院での生活の場とは異なる子どもたちの表情が見られ、また、楽しく過ごしている様子が感じられて嬉しく思った。 ・ 高等部になると、自分自身の卒業後の進路について意識し出す様子が見られる。子どもたちの成長に感心するとともに、日々の先生方からの指導の賜物だと感謝している。 ・ 学校経営計画について、実際の先生方の活躍や子どもたちの様子を見せていただくことで、より安心感が高まった。なにより、生活の場と社会の場という点で、大阪整肢学院との連携をしっかりと取られている様子が伝わってきた。 ・ 組織運営について、トップダウンではなく、先生方が自ら取組内容を考えた学校経営計画であり、校長がそういった意味で“自信作”と言っていたのが、本当に素晴らしいと感じた。各学部の取組みの説明や授業見学から、先生方が一丸となって工夫 			

されようとしている様子や意気込みが伝わってきて、組織運営がうまく機能していると感じられた。

- ・ 地域の支援教育力の向上に向けた取組みをたくさん計画されていることに感銘を受けた。取組みの内容だけでなく、「なかつ支援教育展 ～先生たちの文化祭～」という講座名のネーミングセンスの良さからも、先生方の思いや情熱が伝わってきた。
- ・ 現場の先生方が目の前の子どもたちのために精一杯計画し、希望や可能性が、一つの方向性に向け一丸となって取り組まれている様子が、経営の参考になった。
- ・ 働き方改革について、昨年度の学校経営計画で会議時間の短縮が目標達成できなかったとあったが、子どもたちのために、もっとより良い関わりができるのではないかという現れが理由の一つだと思う。ウェルビーイングの観点から働き方改革を考えつつも、何が一番大切な事なのかを考えるための様々なヒントをもらえ感謝している。一人ひとりの子どもたちとしっかり向き合える時間を共有できるような未来になればと、感じている。
- ・ 学校経営計画や学校要覧、学校教育の説明を受け、また授業参観もさせていただいたなかで、量的・質的な充実を感じられた。子どもたちの能力を最大限まで引き出すためには、先生方や大阪整肢学院で生活支援をされている方々が、同じ気持ちをもって子どもたちに向き合わないといけないと思うが、そういう様子が伝わってきて感動した。
- ・ キャリア教育の身だしなみという点で、現在所属している大学のネイルや化粧等の勉強をしている学生等が協力・応援等できることがあればと感じた。